

平成21年度第5回（第12回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成22年3月8日（月） 10時～11時45分

2 場 所 磯辺地域ルーム（磯辺第一中学校内）

3 出席者

(1) 委 員 23人

欠席：亀井委員

(2) 事務局 青葉教育総務部長、戎谷主幹、加茂主査、時田主査、伊藤主査補

(3) 傍聴者 16人

4 報告・議題

(1) 【議題1】磯辺地区の適正配置の方向性について

(2) 【議題2】次回開催日時・場所について

5 会議資料

- 保護者対象アンケート調査（見本）及び集計結果

6 会議の概要

(1) 【議題1】磯辺地区の適正配置の方向性について

保護者対象アンケートと集計結果の報告の後、磯辺地区の適正配置について協議され、「磯辺地区の小・中学校の統合は必要である」ことが合意された。この合意事項については、事務局で統一した文書を作成し、各小・中学校の保護者に対して周知することとした。また、来年度の協議会では、統合の時期や場所等について協議することとした。

(2) 【議題2】次回開催日時・場所について

今回は、保護者会や自治会の役員改選後の5～6月に磯辺地域ルームにて開催することとし、具体的な日時は会長、副会長に一任された。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶

地域で一番大切したいのは、子どもたちの教育であると考えている。教育については、行政からの一方的に与えられるものではなく、地域の皆でより良い在り方について考えていくべきである。世界が広がり、日本人も国際社会の中での競争にも負けない力をつけていかなければならない。地域として一番大切である教育環境の整備の検討に、より一層のご協力をよろしく願いたい。

(2) 議題

<鳥越議長>

まず事務局に保護者対象アンケート調査の内容と結果についての報告をお願いする。

<事務局>

前回の協議会の要請を受けて、統一したアンケート調査を作成し、2月15日に各学校に配布し、2月19日までに回収をお願いした。依頼文には、協議会での議論の内容と「統合の理解が得られた」ことを示し、保護者から意見を請うという形で作っており、これまでの協議会での議論とアンケート調査の意図を記した。内容については、事前に協議会会長、副会長と保護者組織代表の委員に確認してもらっている。

結果については次の通りである。

- アンケートの全体の回答率は、世帯数の約85%であった。
- 磯辺地区全体では、小学校の統合については「賛成」が53%、「協議会の意向を尊重」が37%、「反対」は9%であった。中学校の統合については「賛成」が48%、「協議会の意向を尊重」が37%であり、反対は14%であった。小学校の統合については「賛成」と「協議会の意向を尊重」を合わせると90%であり、中学校の統合については「賛成」と「協議会の意向を尊重」を合わせると85%であった。

※ 詳細については、資料を参照。

<鳥越議長>

ただ今の報告について質問等はあるか。

<村上委員>

磯辺第二中では、「協議会の意向を尊重する」が特に多いが、これはどのように捉えたらよいのか。

<橋爪委員> (磯辺第二中学校保護者会)

磯辺第二中の保護者の意識からすると、「意向を尊重する」ということは「統合もやむを得ない」と同様であると思う。もろ手をあげての賛成ではないが、将来を考えると、致し方ないということは認識している。

<村上委員>

積極的な賛成ではなく、やむを得ないとなると、数字をどう読むのか難しいところである。

議題1 磯辺地区の適正配置の方向性について

<鳥越議長>

他に質問等がないので、協議に移る。アンケート調査の結果を踏まえて、磯辺地区の学校適正配置をどのように進めるのか、ご意見をいただきたい。

<村上委員>

集計結果の全体をみると、「協議会の意向を尊重する」が1/3強であり、この意見をどう扱うのが問題であろう。

<石塚委員>

協議会として、小・中学校の統合の必要性について理解が得られたこと、また、今後の各学校の将来像を示した上でのアンケート調査の結果なので、「協議会の意向を尊重する」は積極的な賛成とは言わないまでも、前向きな回答と判断してよいのではないかと。

<大浦委員>

磯辺第一中学校区の保護者には、現在の状況から中学校の小規模校化への危機感があるだろう。しかし、磯辺第二中学校区の保護者は、中学校の統合に対して「賛成」と「反対」がほぼ同数であることから、今の磯辺第二中の状況で判断していると思われる。「協議会の意向を尊重」が多いということは、まだ理解が図られていないように感じる。

しかし、前回、「統合が必要」という協議会の理解が図られているので、その方向で進めていけばよいと思う。保護者すべての理解を待っているのは、協議は前には進まないだろう。協議が進む中で理解が図られていくと考える。

<竹内委員>（磯辺第三小保護者会会長）

磯辺第三小の保護者には、感情論もあるだろうが状況の認識はあると考えている。しかし、危機感は薄い。統合する方向で進めていくことには異論はないが、統合校の位置も踏まえて議論を進めてほしい。

<山崎委員>

アンケート調査の中に、「意見があればお書きください」という欄がある。磯辺第三小・磯辺第二中の「反対」の理由としてはどのようなものがあるのか。

<事務局>

厳しい日程の中での集計だったので、そこまでの分析は行っていない。ざっと見た印象では、反対の方も意見の欄まで記入している方は多くないようであった。

<大浦委員>

現状の磯辺第二中に対しては、保護者も地域住民も満足している。しかし、過去に磯辺第三小が小規模となったときには、地域活動や社会体育活動にも支障があり、危機感があつた。将来を見据えた検討が必要だろう。

<水谷委員>

反対の意見にどう対応するかだろう。磯辺第二小は111人中の28人、25%が小学校の統合に反対となっていること、磯辺第三小は中学校の統合に26%が反対していること、このあたりの扱いだか、これまでの学校適正配置の取組みでは、どのように判断してきたのか。

<別所委員>

今回のように統一したアンケート調査を行ったのは磯辺地区だけであろう。

<事務局>

他の地域では、保護者組織や各団体で個別にアンケート調査等を行った例はあり、結果を協議会に提示して、協議の材料としてきた。100%合意というのはあり得ない。「賛成」と「やむを得ない」とを合わせて70~80%であれば、協議会として前向きに進めるという判断をしている例が多いのではないか。

<藤岡委員>

「協議会の意向を尊重」というのは、アンケート調査に記載されていた資料を見ての判断だろう。コメントも大切だが、一般に反対意見を持つ者の方がコメントを書く場合が多いので、コメントでは判断できないだろう。

<磯辺第二小父母と先生の会代表>

磯辺第二小の保護者で「協議会の意向を尊重」と回答した方の意識としては、賛成でもないし反対でもないというものだろう。磯辺第二小の保護者の多くは、統合には賛成だが、統合校の位置については十分に検討してほしいということであると考える。

<高橋委員>

地域に開発があれば子どもたちも増えるという意見もあるが、これは不確定要素であり、仮に開発があっても少子化の傾向は続くと考える。ある時点でこの問題には決着をつける必要があるのではないか。

<鳥越議長>

これまでの協議の皆様の見解では、「磯辺地区は、小・中学校ともに統合が必要である」と認められるがいかがか。

(異議なし。)

<鳥越議長>

それでは、このことについては、事務局にお願いして、統一したお知らせを作成し、各保護者会を通じて保護者へ配布していただきたい。

<事務局>

お知らせ文は、「保護者対象アンケート調査の結果を踏まえ、磯辺地区の小・中学校の統合の必要性については合意された」という内容で作成したい。また、調査結果については全体の集計結果を示し、学校ごとの結果は必要であれば掲載するようにしたい。作成後、保護者組織の代表の方には事前に見ていただきたいので、よろしくお願ひしたい。

<松岡委員> (高浜第二小保護者と教職員の会代表)

高浜第二小は、アンケート調査には参加していないが、お知らせ文は配布していただきたい。

<事務局>

了解した。

※ この後、委員同士のざっくばらんなフリートーキングを行った後、吉岡会長から次のとおりまとめがあった。

<吉岡会長>

磯辺地区の小・中学校の統合の必要性は、協議会として合意されたので、来年度は統合の時期、場所等について議論し、合意を図っていくこととしたい。

議題2 次回開催日時・場所について

<鳥越議長>

次回の開催日時・場所は、来年度の保護者会や自治会等の役員の改選にともない、本協議会の委員の変更もあるので、場所については引き続きこの磯辺地域ルームとし、5月から6月を目途に開催することとしたい。具体的な日時については、会長・副会長へ一任ということで承っていただきたい。

(異議なし。)

(3) 連絡

- 本日の議事要旨については、案を作成し、委員の皆様を確認をいただいた上で完成版とし、今年度中に教育委員会のホームページ上で公開する。各委員におかれては指定した期限までに確認して回答をお願いしたい。
- 来年度の委員についてだが、保護者組織については、原則として新会長が協議会委員となる。会長以外が委員となる場合は、会長と同等の役を担うということであり、会長の推薦のもと委員になっていただく。自治会・学校評議員代表については、4月以降確認の連絡をさせていただきます。変更が既にわかっている団体については、後でお知らせいただきたい。
- 来年度の開催日時については、会長・副会長と相談して連絡する。

(4) 教育総務部長挨拶

皆様方におかれましては、ご多用な中にもかかわらず、この学校適正配置の問題に対して真摯に議論していただき、深く感謝申し上げます。

本協議会は、平成20年2月に吉岡様、石塚様、別所様に発起人となっていただいで立ち上がり、その後鳥越様にも入っていただき、2年間にわたり12回の協議が進められてきた。この間、保護者や地域を代表される方には、保護者や地域住民の方の意向もくみながら協議に参加していただいた。

お陰様で、12回の協議の末、磯辺地区の小・中学校の統合の必要性についての合意を得ることができた。ご苦勞に感謝申し上げますとともに、今後とも、引き続き子どもたちのより良い教育環境整備のための協議をお願いしたい。

(5) 閉会

<吉岡会長>

この協議会も12回を数えた。皆様には、親として、地域の代表として真剣に議論していただき、ありがたく思う。

本協議会では、反対のための議論ではなく、前向きな議論、地域の教育のレベルアップと地域の活性化につながる話し合いをしていただいていることに感謝している。今後とも、磯辺を魅力ある住みやすい街、人が集まる街にしていきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

教育総務部長の青葉様には、わざわざお越しいただいたことに感謝申し上げます。